

古墳から探る石文化

こまつの歴史

石でつくる埋葬施設

古墳時代、日本各地で古墳が造られ、内部には死者を葬る埋葬施設が設けられました。中でも、石を積み上げ部屋を造り、出入りする通路を設けた横穴式石室は、一つの空間に複数回の埋葬を可能とする革新的なものでした。

小松の横穴式石室

南加賀では、西暦550年頃に地元の凝灰岩を切り出し、ブロック状に加工して積み上げる「凝灰岩切石積石室」が登場します。その後の飛鳥時代に造られた河田山古墳群の石室では、石材のズレを防ぐ高度な積み方が導入されていること、朝鮮半島の王墓に似た天井構造であったことも分かりました。更に、那谷金比羅山古墳では畿内の有力者と同じ構造の石室も発見され、小松は大陸や中央と深い関わりがあったことがうかがえます。



河田山33号墳側壁 高度な技術が使われた凝灰岩の石室



調査中の河田山12号墳石室

小松の石文化を語る上では欠かせない河田山古墳群の石室。そこには、当時の高度な石材加工技術が残されていました。

問い合わせ

埋蔵文化財センター

☎ 47・5713

石文化を再発見

発見された「凝灰岩切石積石室」から、良質な石を見つけ、高度な技術で加工していた人々の姿が浮かび上がります。現代まで続く小松の石材産業の始まりとも言える河田山古墳群の石室。日本遺産認定10周年を機に「石室」から「石文化」を再発見してみませんか。

関連行事

日本遺産認定10周年記念シンポジウム

「南加賀の凝灰岩切石積石室と古墳文化」

～河田山古墳群の謎を追う～

古墳時代が終わりを迎える中、精巧な凝灰岩切石積石室がなぜ小松の地に築かれたのか。日本大学文理学部教授 山本孝文氏をコーディネーターに迎え、日本列島と朝鮮半島の様相から考えます。

と き 11月14日(土) 9時40分～16時40分

と ころ 市民センター 小ホール

申し込み 10月3日(土)～電話またはこまつ電子申請サービスから



小松能美2市連携企画展

南加賀の後・終末期古墳と凝灰岩切石積石室

と き 12月6日(日) まで

と ころ 加賀国府ものがたり館

休館日 水曜日(祝日除く)、

祝日の翌平日

